

シリーズ

お互いの力でまちづくり

⑧

日本ふるさと塾主宰 萩原茂裕

人生というのは、自分だけのためにあると思いがちですが、そうではありません。子供や孫たちに継承していくのが人生です。

これは企業にも、そしてまちづくりにいえることです。わたしたちは後に続く人たちのためにいまを生き、やるべきことをやるのです。道路や橋をつくるのも、学校や病院を建てることも、森や川を大切に豊かな自然を残すことも、みんな子供や孫たちを

信頼して、後世につなげていくためです。

ところが、現実にはなかなかこうはいきません。そのときだけ、その場限りのまちづくりに終始して、後に続かないのがほとんどです。しかし、これでは本当のまちづくりとはいえません。

将来を考えて  
スタートを切る

長野県の野沢温泉村——いまは全国でも有数といわれる

その場限りの

まちづくりは

やめよう!

ほど、豊かで素晴らしい村になりました。

この先輩たちが村おこしのスタートを切るときにまず第一に考えたことは、「この村に子供や孫たちが、生き残れるだろうか!？」ということでした。子供や孫たちの将来を思ってこそ、まちづくりは動き出すのです。

子供や子孫のために考えたか

いま、まちづくりのために始めたことは、何年後、いや何十年後に子供や孫たちの代で実を結ぶことのほうが多いのです。言い換えれば、まちづくりは、子供や孫たちへの最大の贈り物だといってもいいでしょう。

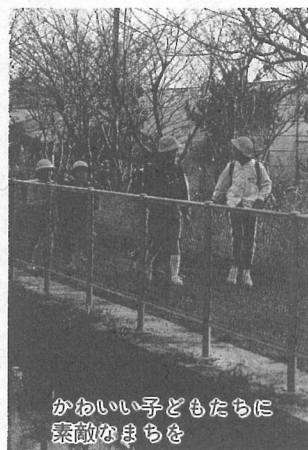
頭脳と心で

ふるさとに役立つ

数年前、愛知県のある中学校に講演に出かけました。講演が終わると、生徒会の会長が立ち上がりこう言いました。「いままで、ぼくはこの町が嫌いでした。でも、これから

好きになります。

ぼくは将来、東京の大学に行きたいと思っています。ふるさとへ帰ってこないかもしれない。でも、勉強したり、仕事をしたりしているときに、ふるさとに役立つことがあつたら、それをふるさとへ送る努力をしたいと思います。」



かわいい子どもたちに  
素敵なまちを

私は胸が熱くなりました。

自分のふるさとを思う、純粋な心に感動しました。よくUターンといいますですが、頭脳と心のUターンもできるのだと、そのとき、その高校生から教わりました。

今日や明日に  
成功することは  
できない

まちづくりは、今日、明日に成功することではありません。人。

「十年後のこのまちを見てください」

そうした気持ちで原点にあるかないかにかかっているのだと思います。素晴らしい贈り物をつくるために、計画を立てるときに、ぜひ、子供や孫たちのことを考えてください。

